

2024年度第1回情報教育研究委員会データサイエンス分科会議事概要

I. 日 時：令和6年6月13日（木）13：00～14：00

II. 場 所：Zoom 会議室

III. 出席者：渡辺主査、松尾委員、大原アドバイザー、辻アドバイザー、（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

1. リテラシーレベル、応用基礎教育レベルのワークショップ実施について検討を進めた。

(1) ワークショップの日程役割分担について

- ・ 9月5日（木）教育イノベーション大会の14：20～16：00で分科会としてワークショップを開催することを確認し、説明70～80分と意見交換20～30分の構成で、事例説明、司会進行、司会補助を分担することにし、当日の対応スケジュールを調整することにした。

(2) ワークショップで取り上げるテーマ等について

- ・ 生成AIは昨年度に十分な紹介を行ったと考えており、BI（ビジネスインテリジェンス：ビッグデータ利用による意思決定のための情報分析など）をテーマにしてはどうかとの意見があった。
- ・ BIの事例紹介は、大学はビジネス系が弱いので参考になるのではないかと。
- ・ ビジネスと言ったときに学生に伝わるのかの疑問があったが、あくまでBIツールによるビッグデータの活用体験で、学生が討議できる問題発見・解決型形の学びを想定している。
- ・ 2月に数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム改訂が行われ、キーワードとして、社会変化に生成AIが取り上げられ、データを扱うデータ解析ツールにBIツールが取り上げられており、ダッシュボードのデザイン思考など大切ではないかと。BIツールを学生に経験させることが文科省の方針に含まれたことを話してから事例紹介を行えば理解が進むのではないかと。
- ・ 企業では入社して直ぐに利用するが、大学教育では活用の少ない実践的なデータやツールの利用を想定して、日々のデータの変化も確認しながらインタラクティブな15回授業を構成している。
- ・ 事例として説明を予定しているものは、BIツールと実データがセットになっており、Web検索データなども含まれることで、教員が課題を提示するが、データから学生自ら課題を見つける出す学びとなる可能性がある。（以前はSNSデータを利用していたが、発信者のデータで非投稿者は含まれないことから、Web検索データの利用とすることになっている）
- ・ BIツールとデイリーな実データの利用は、有料となることで費用面の課題があるが、中には、データの加工、可視化、統計・機械学習、ダッシュボード・レポートの作成が行えるツールが大学では無料で利用できるものもあり、例えばコロナのオープンデータ使用により授業での活用が考えられるが、英語のデータであったり県別のデータであったり学生が興味を持てる課題もあると考える。

V. 今後のスケジュール

次回の分科会はネットでスケジュール調整して7月に開催し、事例紹介の内容と意見交換の項目等を検討することになっている。